

水俣・芦北地域戦略プラットフォーム

第17回課題検討会のお知らせ

(第2回地域戦略検討会)

水銀規制の 国際的動向 をまなぶ



中地重晴氏は、「市民・住民のための調査研究機関」である環境監視研究所所長としての活動を中心に、20年以上にわたって全国各地・世界各地の環境汚染調査に取り組んできた、化学物質の専門家です。また、PRTR(有害な化学物質の環境中への排出や移動について把握・公表する制度)に関連する情報を市民にむけて伝えていく活動団体「有害化学物質削減ネットワーク」(Tウオッチ)の代表として、そして2008年度からは水俣学研究センター客員研究員としても活躍しています。

このような「現場密着型」活動を続けてきた中地氏が、今年度より熊本学園大学社会福祉学部教授に就任しました。今回のプラットフォーム課題検討会では、水俣につながるの深いテーマである水銀規制の国際的な動向について、中地氏の報告を通して学びます。

報告 中地重晴氏

(熊本学園大学社会福祉学部 教授・水俣学研究センター 研究員)

日時 2010年5月24日(月) 19:00~21:00

場所 熊本学園大学 水俣学現地研究センター

水俣市浜町2-7-13(水俣市公民館裏、婦人会館向かい)

TEL・FAX 0966-63-5030

「水俣・芦北地域戦略プラットフォーム」世話人会・事務局
熊本学園大学水俣学研究センター 藤本延啓

「水俣・芦北地域戦略プラットフォーム」とは

「負の遺産」としての水俣病事件をベースに、人間としての生き方、日々の暮らし、地域社会(教育、環境、福祉、経済、政治など)のあり様を問い直そうとする市民、NPO、研究者、民間事業者、行政職員など多様な関係者の“出会いの場、学習の場、討議の場”であり、また、“新たな価値(生活文化)を創造する「場」”として位置づけられた舞台(プラットフォーム)です。